



雪 浦は移住者が集まるまち。
荒木洋子さんもその一人だ。

福岡でパン教室を営んでいた荒木さんが、雪浦でパンとカフェ&ゲストハウス「B&B MAHALO」をオープンしたのは三年前。「先に移住していた息子を訪ねて来た雪浦で、地元の人に『パン屋をしてほしい』と声を掛けられ、週末だけやってみようかなと思ったのがきっかけ」だという。

オープン当初、平日は福岡でパン教室、週末は雪浦でパン屋を営んでいた荒木さんだったが、まもなく拠点を雪浦に移した。「雪浦の人たちが皆、ウェルカムで『ここならやっていける』と思いました。それからすぐに福岡の住まいを売却し、ご縁で紹介してもらった物件を購入して、新しく店舗兼ゲストハウスを建てました。雪浦の人たちはとてもフレンドリーで、よそ者を敬遠する感じがありません。その雰囲気に乗ってしまいました（笑）」。

移住後は一週間のうちの四日間を雪浦で過ごし、残りの三日間を福岡でパン教室を開くという生活を送っている。「毎週、三時間半をかけて自分で運転して、福岡に通っています。そして雪浦では毎朝四時に起きてパンを焼いています。まったくのんびりしていませんよ」。そのバイタリティーあふれる生き方の源は何だろうか。荒木さんは「パン作りが好きなよ」と笑う。「パンを作るのが好きで、好きなことを教えるのも好き」。荒木さんにとっては、福岡での刺激のある時間も、「住

雪浦

西海市
雪浦
YUKINOURA

好きな場所で、
大好きな
パン作りをしながら、
生きてゆく。



テラス席でコーヒーと一緒に。
ハム・たまご・チーズを挟んだ「クロックムッシュ」は絶品!



店内には焼きたてのパンをはじめ
焼き菓子なども並ぶ。

店内では雪浦にある他店の商品も
購入することができる。



みやすい環境があって、空気も人も良い」雪浦での暮らしも、どちらも「充電」なのだそう。移住すると決めたのは六十歳を過ぎてから。「残りの人生を好きなように生きたいと思って。この地域のお年寄りは皆、腰がシャンとしていて元気。雪浦での暮らしが長生きにつながっているのですね」。香ばしい匂いが漂う店内に、次々に地元の人たちが入って来ては、お気に入りのパンを手にとってゆく。雪浦唯一のパン屋は、地元の人たちにとってかけがえのない場所になっていた。